



ASAHI University News Letter

vol.141
September 2022

発行日/隔月1日
編集・発行/朝日大学 総務部



朝日大学HP

オープンキャンパスを開催

高校生や保護者を対象としたオープンキャンパスを、新型コロナウイルス感染防止対策を講じて開催しました。

来場者は、模擬授業や実習体験、入試・奨学金説明会、キャンパス見学などのプログラムに参加し、大いに「朝日大学」を体感したようです。



穂積キャンパスで朝日大学の魅力に触れる(全体説明会:6号館大講義室)

オープンキャンパスで朝日大学を体感

模擬授業・キャンパス見学などで1日大学生

法学部、経営学部、保健医療学部のオープンキャンパスが開催（5/22、6/19、7/17、8/7）されました。

高校生や保護者らが来学し、模擬授業・実習体験、入試・奨学金制度説明会、キャンパス見学、個別相談などのプログラムに参加し、「朝日大学」の魅力を感じました。

保健医療学部健康スポーツ科学科の実習体験では、測定機器を用いて参加者が身体の動きを測定し、運動を科学的な視点で捉えることの大切さを学びました。



測定機器を用いた実習体験

看護の魅力に触れる

保健医療学部看護学科では、看護の魅力が語られ、教員や学生スタッフと一緒に模擬授業や実習を体験。参加者は看護の基本となる衛生的な手洗いをはじめ各専門領域の内容に触れました。

また、学生生活について質問できる個別相談コーナーへ多くの参加者が訪れ、大学での学びについて理解を深めました。



母性・小児看護実習室にて

未来の歯科医師を目指す

歯学部志望者を対象としたオープンキャンパス（6/19、7/24、8/21）では、高校生、保護者らが集い、本大学の「建学の精神」や教育方針、歯科医師の魅力、国家試験の合格実績などの説明に熱心に耳を傾けていました。

高校生たちは、模擬講義を受講後、実習体験に参加し、「歯科医療」の現場を「ワクワク、ドキドキ」しながら実体験しました。

未来の歯科医師たちは、朝日大学の歯学教育を体験し、歯科医師をめざす気持ちがより強くなったようです。



「インプラント」を埋めてみよう



じっくりと個別相談

感染拡大防止策を徹底して開催

オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、完全予約制により実施されました。参加者の安全・安心確保のため、運営に携わる教職員・学生の検温の徹底（開催日の前後合計3週間）、校内の清掃と消毒、間隔を空けた座席の配置、受付での検温、講義室の常時換気と入退出時の手指消毒等を行いました。



感染拡大防止対策を徹底

市民相談室



相談内容

- ▶法律・経営に関すること
- ▶歯や体の健康に関すること

朝日大学では、地域の皆様との交流を深めるとともに、本大学で行っている教育や研究の成果を皆様の生活に役立てていただけるよう、無料の市民相談室を開設しています。

それぞれの分野について専門の教員が皆様からのご相談をお受けし、解決に向けてのアドバイスをさせていただきます。

予約制

相談は電話による予約制です / 予約受付時間 / 月～金 9:00～17:00 土 9:00～13:00

法律・経営
健康相談

TEL 058-329-1199

E-mail : soudan@alice.asahi-u.ac.jp

入試相談

TEL 058-329-1088

E-mail : nyushi@alice.asahi-u.ac.jp

朝日大学は、 今こそ平和を希求する

沖縄県と朝日大学

沖縄県の皆様、本土復帰50周年、誠におめでとうございます。

私ども朝日大学は、前身の岐阜歯科大学(創立1971年)の時代から、沖縄県から多くの進学者をお迎えしてきました。その数は直近の10年間で振り返りましても、県内57の高等学校から350名に上ります。これまでも、そしてこれからも沖縄の歴史と未来に目を向けて、共にあゆみ続けます。

また、沖縄県知事を2期8年務められ、沖縄国際平和研究所を主宰された故大田昌秀先生には、幾度も朝日大学まで足をお運びいただき、学生に講義をしていただきました。在日米軍基地問題を考えるとき、思考停止に陥ってしまいがちな私たちに、ご自身の沖縄戦体験に基づき、戦争の愚かさや平和の尊さを力強く訴えてくださいました。



在りし日の大田先生。講義を終え学生らとともに

「さくらサイエンスオンライン プログラム」を実施

本大学と海外交流協定を締結している北京大学口腔医学院とのオンライン交流「日本と中国における高齢者介護に係る介護職員および高齢者自身の口腔健康管理に対する意識の比較」が、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)の「さくらサイエンスプログラム：国際青少年サイエンス交流事業」に採択され、6月7日にオンラインプログラムを実施しました。

この事業は、日本と世界の科学技術の発展と青少年の交流を目的とし、日本の科学技術分野の最先端技術を紹介するためにオンライン交流を行う大学や企業・団体等に、JTSが支援する事業です。



北京大学口腔医学院の参加者

有識者懇談会を開催

教育課程編成や研究活動を評価

穂積キャンパスで「朝日大学の教育研究に関する有識者懇談会」が7月13日に開催されました。

懇談会では、本大学の教育研究に関することや2021年度事業報告・決算についての説明が行われ、森和之瑞穂市長様をはじめとする有識者委員の方々から貴重なご提案等をいただくことができました。懇談会での貴重なご意見は、今後の教育課程編成の検討や研究活動に反映し、改善へとつなげていきます。

有識者懇談会は、本大学の学部及び大学院研究科における教育研究に関して、学外の有識者から意見を聴き、教育課程編成等の改善検討及び研究活動の推進に活かすことを目的として設置されている懇談会です。



有識者懇談会が開催される

地域創生における大学の役割

各務原市長を講師にお招き

穂積キャンパス6号館大講義室において、「建学の精神と社会生活」の授業で、浅野健司各務原市長を講師にお迎えし、「朝日大学と岐阜県 岐阜学～地域創造における大学の役割～」をテーマに講演をいただきました。

浅野市長からは、市民生活を支える特色ある取り組み、特に若者によって展開されている事例紹介を中心として、各務原市の特徴と市政について解説いただきました。講演の最後には、浅野市長から「大学と地域とのつながりを有効に活用し岐阜県、そして、瑞穂市で有意義な学生生活を送っていただきたい」とのメッセージが受講生に届けられました。



浅野各務原市長が講師を務める

「本当に強い大学」にランクイン

本当に強い大学

総合ランキング (全国880校中) **第70位**

週刊東洋経済(臨時増刊号5/23)の特集「本当に強い大学2022-トップ300*」において、上位にランクインしました。



*トップ300は全国の国公立大学(880校)を対象に、4つの指標(教育・研究力、就職力、財務力、国際力)でランキングを算出し、上位300校を掲載

「日本外傷歯学会学会賞」を受賞

田村康夫副学長(兼歯学部長)が2022年7月に「日本外傷歯学会学会賞」を受賞されました。

同賞は、日本外傷歯学会発展のために長年にわたり精励し、顕著な功績が認められた者に贈られる賞です。田村先生のこれまでの小児外傷歯の診断・治療に対する教育・臨床・研究、また認定医セミナー開催等により後進の育成指導に励んできたことが高く評価されたものです。



「日本外傷歯学会学会賞」を受賞された田村先生

若手研究者が名誉ある賞を受賞

「肉眼解剖学トラベルアワード」

本大学歯学部助教(口腔解剖学分野)の櫻屋透真先生が「第127回日本解剖学会総会・全国学術集会」において発表した「ヒト上科におけるヒラメ筋支配神経筋内分布の比較解剖学的研究」が高く評価され、「肉眼解剖学トラベルアワード(献体学術賞)」を受賞されました。



「肉眼解剖学トラベルアワード」を受賞された櫻屋先生

「日本口腔科学会中部地方会新人賞」

本大学大学院歯学研究科院生(口腔外科学分野:摂食嚥下リハビリテーション学専攻)の多田瑛先生が、「第76回日本口腔科学会学術集会」において、「機能的障害における鼻咽腔閉鎖機能不全の嚥下補助装置の効果」の発表が高く評価され、「日本口腔科学会中部地方会新人賞」を受賞されました。



「日本口腔科学会中部地方会新人賞」を受賞された多田先生

日本小児科学会「優秀発表賞」

本大学歯学部(口腔構造機能発育学講座小児歯科学分野)の特別研究生 清川裕貴先生とポストドクターの吉安慧人先生が「第60回日本小児歯科学会大会」において、以下の発表が高く評価され「優秀発表賞」を受賞されました。

「糖尿病患児由来乳歯歯髄細胞を用いた膀胱特異的幹細胞(T1D-iTSC-P)の樹立」
(清川裕貴先生)

「S-PRGファイラー含有マウスガードとペースト併用による人工的初期齲蝕の再石灰化メカニズム」
(吉安慧人先生)

今後、先生方の益々のご活躍が期待されます。



「優秀発表賞」を受賞された清川先生(右)



「優秀発表賞」を受賞された吉安先生(右)

ジュニア・ロースクール開講

夏休みの体験学習

穂積キャンパス6号館模擬法廷などで、新型コロナウイルス感染防止措置を講じて、中学生を対象とした「第13回岐阜県弁護士会ジュニア・ロースクール」が8月8日に開講されました。

成人年齢の引き下げ、裁判員制度による国民の司法参加が必須となった今日において、一般市民に対する法教育、さらには、若年層に対する学校での法教育の重要性が増えています。

本ロースクールは、岐阜県弁護士会、法学部を有する朝日大学、県内の学校の法教育推進を目的として設立された岐阜法教育研究会が連携し、中学生の夏休み体験学習の一つとして毎年開講されています。



中学生たちが裁判員制度を学ぶ

「FD・SD研修会」を開催

共に平和を祈ろう

FD活動推進委員会(委員長:森下伊三男副学長)主催による「FD・SD研修会」が、5月20日に穂積キャンパス6号館大講義室で開催されました。元・駐ウクライナ特命全権大使の角茂樹氏を講師にお迎えした研修会では、「ウクライナ情勢～ウクライナ国民は何を望んでいるのか～」をテーマに、ウクライナを取り巻く世界情勢、ウクライナ国民の願い、世界平和を希求することの重要性など貴重なご講話をいただきました。

参加した約300名の教職員および学外招待者は、平和を祈りつつ講師の話を中心に聴講していました。



ウクライナ情勢を語る角先生



ウクライナFD・SD研修会

高大連携をさらに推進

高校生との交流

本大学の教職課程を受講している学生が、6月1日に岐阜県立池田高等学校の「課題研究中間発表会」に参加しました。



総合的な探究の時間で助言や支援

同校の「総合的な探究の時間」では、グループごとに課題を設定し、研究が行われています。参加学生は、仮説の立て方や発表の仕方が適切であるかどうか、助言や支援を行いました。高校生にとって有益な支援とは何かを、また適切な助言にあたり自身も研鑽を積み重ねなければならないことなどを学ぶことができ、参加学生にとっても実りある時間となりました。

「中学生簿記初級講座」を開講

宿題は原則なしで楽しく学ぶ

瑞穂市と朝日大学の包括連携協定に基づき、2016年度から「中学生簿記初級講座」を開講しています。7期目を迎える「中学生簿記初級講座」では、本大学経営学部の山田雄治教授が講師を務め、「原則、宿題はなし」で毎週土曜日に開講し、中学生は簿記の楽しさを学んでいます。

簿記は、企業言語として企業の財政状態や経営成績を数字で読み解くことができ、これから社会を担っていく「若者のキャリア教育」としても有効で、簿記会計の力で地域社会を支える人材が育っていくことが期待されます。



「中学生簿記初級講座」が開講

図書の寄贈を受ける

「朝日大学×SDGs in GIFU」を宣言

本大学法学部講師の二見絵里子先生から、図書の寄贈を受けました。寄贈いただいた図書『環境問題と法 身近な問題から地球規模の課題まで(法律文化社)』(複数の執筆者が編纂・協力)で二見先生は、ご自身の専門である環境法について個別・具体的な事例を担当。気候変動や原子力発電など身近な環境問題を取り上げ、それぞれの問題を解説したうえで環境法の説明に入るといふ、初心者にも分かりやすい構成で書かれた1冊です。

本大学は「朝日大学×SDGs in GIFU」を宣言し、クールビズ活動や資源リサイクル運動を通して、環境に配慮したエコキャンパスづくりを推進しています。学生・教職員が、環境問題を自分事として捉え、行動に移していくヒントになる1冊です。

大学と産業界の知の融合

OKB大垣共立銀行と連携協議会

OKB大垣共立銀行と本大学とが2005年3月に締結した「産学連携に関する基本協定」に基づき、「2022年度産学連携協議会」が、4月28日に穂積キャンパス5号館会議室で開催されました。

協議会では、本大学の知と産業界の知の融合によって更なる地域社会への貢献を図るため、これまでの産学連携活動の報告を振り返りながら、2022年度における活動計画をはじめ、地域課題解決のための方策や大学運営などについて意見交換が行われました。



産学連携協議会の出席者

濃飛倉庫運輸(株)と連携協議会

2013年9月に締結した「産学連携活動に関する合意覚書」に基づき、濃飛倉庫運輸(株)と本大学の「第8回産学連携協議会」が、6月2日に濃飛ビル(岐阜市)で開催されました。

協議会では、2021年度の産学連携活動の実施報告、2022年度の産学連携活動の継続と発展に向けた有意義な意見交換が行われました。



産学連携協議会の様子

慢性頭痛と痛みの外来

慢性頭痛と慢性疼痛に悩まれている人へ

朝日大学病院(岐阜市橋本町)に「慢性頭痛と痛みの外来」が本年3月に開設されました。当該診療科は、専門外来として開設、頭痛外来と痛みの診療(ペインクリニック外来)を行っています。

慢性の頭痛(片頭痛、緊張型頭痛、群発頭痛、薬剤の使用過多による頭痛)、帯状疱疹後神経痛・三叉神経痛・腰痛・坐骨神経痛などの神経障害性疼痛の症状をお持ちの患者様に対して、薬物療法や神経ブロックなどを組み合わせた治療を行っています。

頭痛に悩んでいる人は日本人の30%といわれ、特に慢性頭痛は、適切な治療を行うことで生活が楽に過ごせるようになる可能性があります。ペインクリニックでは他の専門科とも協力しながら難治性疼痛に取り組んでいますので、お気軽にご相談下さい。



慢性頭痛と痛みの外来のスタッフ

教育懇談会を開催

建学の精神に基づく教育方針を説明

法学部、経営学部、保健医療学部健康スポーツ科学科の教育懇談会が7月2日穂積キャンパスで、新型コロナウイルス感染症対策を講じ1家族1名の参加として開催されました。

各学部別に行われた懇談会では、学部長から「建学の精神」に基づく教育方針の説明を交えた挨拶や、教員紹介、遠隔授業の概要説明などがあり、質疑応答が行われました。

その後の「個別相談」では指導教員、学事一課学生生活支援室及び就職支援課の担当職員による学業成績、学生生活、奨学金相談、就職相談などの面談を行い、実り多い教育懇談会となりました。

大学、学生、父母が共通認識

また、「未来の歯科医師」育成に取り組む歯学部でも、学生、保護者及び大学の三者が共通の理解と認識を持ち「将来の歯科医師」をめざすための「教育懇談会・三者面談」が7月16日に穂積キャンパスで開催されました。



保護者らが教育方針等の説明を熱心に聞く

看護学科「建学の精神と社会生活」

保健医療学部看護学科で「建学の精神と社会生活」の授業（1年次必修科目）が、4月22日に穂積キャンパス6号館大講義室で実施されました。

臨床看護師の体験から学ぶ

授業では、「看護活動の実際（臨床看護師の体験から学ぶ）」をテーマに、朝日大学病院の田垣春美看護部長、滝口若菜看護師（2020年度卒業）、藤田医科大学ばんだね病院・岡崎医療センターの小畑莉穂元看護師（2017年度卒業）に講師を務めていただきました。

田垣看護部長は、「患者様の状態を正確に把握し対応、チーム医療の提供、在宅支援の3点が看護師に求められており、大学の講義や臨地実習で学びを深め、患者様に寄り添える看護師を目指してほしい」とアドバイス。2名のOGからは、看護師業務の説明、やりがい、困ったこと、先輩や患者様から学んだことが具体的に紹介されました。

学生にとって、「目指す看護師像」について考える良い機会になりました。



熱心に聴講する看護学科学生

学生部が主催する講話

「熱中症」は身近な問題

6月20日に「熱中症対策講話」が学生部主催の行事として開催され、各クラブの学生や教職員ら約70名が受講しました。

本講話は、この時期「熱中症」による事故が多数報告されていることから、運動中、課外活動中の「熱中症の危険性」について、学生や教職員が十分認識を高めることを目的に毎年開催されています。また、併せて「救命救急法講習会」も開催され、不測時の対処方法などを学びました。



熱中症対策講座の様子

自己防衛のための意識高揚を

また、7月4日に「犯罪に巻き込まれないために」と題し、岐阜県警察本部と北方警察署から講師をお迎えして、「学生補導講演」が開催されました。

「SNS、DV、ストーカー、アルコール」といったトラブルに本学学生が巻き込まれないように「各自の自己防衛のための意識高揚」につながる講話が行われ、学生や教職員約110名の受講者は熱心に講演の内容に耳を傾けていました。

大規模災害の発生に備える

災害歯科保健医療チーム研修会を開催

穂積キャンパス内の医科歯科医療センターで5月21日に、「第1回災害歯科保健医療チーム研修会」が開催されました。

同研修会は、大規模災害の発生時に、岐阜県歯科医師会及び歯科衛生士会やその他関係団体との連携をはかり、円滑な災害歯科保健医療の体制が速やかに整えられることを目的としたものです。

研修会では、岐阜県歯科医師会の中島誠治常務理事、県災害歯科保健医療部会の森康志委員長、本学歯学部の横矢隆二准教授が講師を務め、災害歯科保健医療に関する講義を受講し、その後、グループワークと結果発表を行い、大規模災害発生時に必要となる行動についての理解を深めました。



研修を終え、受講修了証を手にする参加者

体育会総会を開催

アスリートが集う

穂積キャンパス6号館大講義室で対面及びサテライト会場(リモート)を利用し体育会総会が、5月17日開催されました。

2002年10種目でスタートした体育会は、現在14種目約800名のアスリートが集い、数多くの全日本チャンピオンやオリンピック選手、公認会計士を輩出するなど国内外でめざましい活躍をしています。

山本英弘体育会会長は、総会で「新型コロナウイルス感染症予防対策を万全としたうえで、体育会のモットーである文武両道を旨とし、これまでの輝かしい伝統を引き継ぎ、より発展させ、朝日大学の名声を高めていこう」と熱く語りました。



山本会長が体育会総会で挨拶

「キッズテニスクリニック」をサポート

子供向けのテニス教室「キッズテニスクリニック」(岐阜県テニス協会主催)が、長良川テニスプラザ(岐阜市福光)で5月8日に開催されました。

同クリニックでは、女子テニス元世界ランク4位の伊達公子さんや、「カ
「キッズテニスクリニック」の様子
ンガルーカップ女子オープンテニス2022(5月2日～8日)」の出場選手が、子供たちに「テニスの楽しさ」を指導。本大学体育会硬式庭球部の部員がクリニックの運営をサポートしました。



公認会計士試験短答式試験に合格

高大連携の成果が実る

令和4年公認会計士試験短答式試験(6月24日合格発表:受験答案提出者9,870名、合格者数780名、合格率7.9%)に体育会会計研究部の部員5名がみごと合格しました。

本大学では、岐阜県内の8つの高等学校と簿記会計教育に関する連携協定を結び、地域社会の発展に貢献できる優秀な生徒の修学環境の整備について、相互に協力・支援を行っています。



公認会計士試験短答式試験に合格

元日本代表監督「総監督」就任

本大学体育会硬式野球部の総監督に、本年4月1日付けで本大学教授の後藤寿彦先生が就任されました。

「指導者と選手がコミュニケーションを図り、強化に努めたい」と語った後藤総監督は、岐阜県各務原市の出身で、慶應義塾大学へ進学。東京六大学リーグでは三冠王を獲得。その後、社会人野球でも活躍し、慶應義塾大学、日本代表や西濃運輸(株)の監督、JR西日本の総監督を歴任。現在は、岐阜県野球協議会の理事長を務められています。

2022年度東海地区大学野球春季岐阜リーグ5位に終わった硬式野球部の、今後の活躍が期待されます。



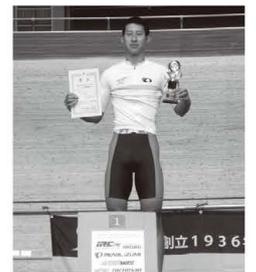
後藤総監督

「全日本学生選手権」でチャンピオンを輩出

4kmIPで優勝ほか4種目で入賞

体育会自転車競技部は、7月2・3日に日本CSCベロドローム(静岡県)で行われた「第62回全日本学生選手権トラック競技大会」に出場。安達光伸選手(経営学部3年)が4kmIPで、上杉有弘選手(同学部3年)がスクラッチで、吉野太晟選手(同学部3年)・白井輝選手(同学部2年)ペアがタンデムSPで、みごと学生チャンピオンに輝きました。

自転車競技部は、今後9月に鹿児島県で開催される「全日本大学対抗選手権大会」へ出場し、総合入賞をめざすこととなります。



スクラッチ優勝の上杉選手

チームロード堂々の準優勝

また、埼玉県加須市利根川上流域で6月4日に行われた「第60回全日本学生選手権チームロード、同個人TTロード」では、チームロードで堂々の準優勝の好成績を収めました。



チームロード準優勝の選手

NEWS

期日前投票が行われる

「第26回参議院議員通常選挙」の期日前投票所が穂積キャンパス内の図書館クリエイティブワーク・エリアに開設されました。

今回の選挙では、法学部学生による「こぞって投票にいこまいプロジェクト」のメンバーが、期日前投票を呼び掛け、6月29日の開設日には、新たに投票権を得た10歳代の学生、教職員や近隣住民ら80名が投票を行いました。昼休みには投票の順番待ちができ、若者の主権者意識の高さを感じられる期日前投票となりました。



「こぞって投票にいこまいプロジェクト」のメンバーが呼び掛け

「18歳大人」宣言

改正民法・改正少年法

改正民法・改正少年法の施行により成人年齢が本年4月1日から18歳に引き下げられました。

本大学法学部学生で構成される自主防犯ボランティア「めぐる」が、法学部の新生生に対して、4月7日の「民法総則A」の講義に先立ち「朝日大学生18歳大人宣言」のリーフレットを配付しました。

同講義担当の法学部小出隼人講師は、改正民法・改正少年法について解説を行い、受講学生約70名に向け「大学生18歳は成人との自覚を持つこと、正しい知識を身に付け、自分で自分の身を守ることが大切、いわゆる消費者トラブルなどに細心の注意を払うように」と語りかけました。



「めぐる」が新生生に「18歳大人」宣言を行う

2年ぶりの朝日祭!!

コロナ禍ならではのイベントを予定

「第50回朝日祭」

新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催を予定。

期 日 2022年 10/15(土)・16(日)

催し(予定) ライブコンサート、模擬店、クイズ・ビンゴ大会 など



これまでの朝日祭の様子



児童自立支援施設との交流

本大学法学部の刑事法ゼミに所属する「朝日大学BBS」の学生メンバーが、4月17日に「やまへい農場」(関市)等の協力の下、いちご狩りやクレープ作り体験を通じて児童自立支援施設「岐阜県立わかあゆ学園」(大野町)の子供たちとの交流を深めました。

同学園の子供たちは、笑顔が絶えずとても楽しそうに学生たちと過ごしていました。BBSのメンバーは「授業で得た知識をフィールドワークで実践することができました」とコメントしていました。



わかあゆ学園の子供とBBSのメンバー

子供たちからお礼の手紙

交流から半月を過ぎた4月終わりには、同学園の子供たちからお礼の手紙「一緒にクレープ作りやボール遊びができて楽しかった。また、わかあゆ学園に遊びに来てください」が届き、学生たちは、思わぬお礼の手紙に感激していました。

スポーツフェスティバル開催

穂積キャンパス・ラグビー場他において、(公社)ぎふ瑞穂スポーツガーデンと連携して「第12回スポーツフェスティバル」が7月9日に開催され、地元の小・中学生や保護者ら約350名が参加。新型コロナウイルス感染症予防対策を講じて大学生らとのスポーツを楽しみました。

今回で12回目の開催となった同フェスティバルは、全学をあげスポーツ活動を支援している朝日大学が、地域貢献活動としてレクリエーションを通じてスポーツに親しんでもらおうと開いたスポーツイベントで、地域住民と学生との交流の場となっています。

子供たちが様々なスポーツやレクリエーションを体験

フェスティバルでは、体育会各部の部員が指導者となり、ラグビー部、フェンシング部、ホッケー部をはじめ体育会各部、防犯ボランティア「めぐる」がそれぞれ遊びの要素を取り入れたレクリエーションやゲームを企画運営し、参加者らとともに楽しみました。



(公社)ぎふ瑞穂スポーツガーデンと体育会が連携